

ひょうご棚田シンポジウム

～棚田・里山再生のために今私たちができること～

棚田は、お米を生産する場にとどまらず、国土や環境の保全、農村の美しい原風景の形成など多様な役割を果たしています。しかし、棚田地域では、後継者(担い手)不足という課題があり、放棄田が増えています。だからこそ、これからの未来の子どもたちに美しい棚田をつなぐために今何を行えばいいかを意見交換するシンポジウムを開催します。多くの方々に、現状と課題、農村と都市のつながりの大切さを知ってもらい、現実の行動(棚田米等農産物の購入、就農、環境保全活動等)につなげることを目的として実施します。

Program

1 報告 13:10～13:30

「市川町上牛尾地区の棚田保全活動について」

シンポジウム開催地の市川町上牛尾地区で15年間にわたって棚田保全活動に取り組むNPO法人棚田LOVER'S理事長 永菅裕一氏に成果と課題について報告いただくとともに、大久保氏、浅井氏と今後の活動方針について語っていただきます。

報告者 永菅裕一(棚田くん)(NPO法人棚田LOVER's理事長)

コメンテーター 大久保 徹 (ポプラ社)

浅井 智子 (『自然育児 森のわらべ多治見園』園長)

2 基調講演 13:30～14:10

「棚田の社会的価値とその継承に関する課題」

棚田学会理事の安井一臣氏に棚田の多面的機能や社会的価値、また、棚田保全活動、地域活性化活動を継続するための人材育成等継承に関する課題について講演いただきます。

講師 安井一臣 (棚田学会理事)

3 パネルディスカッション 14:10～15:25

「棚田・里山再生のために今私たちができること」

県内外の棚田保全活動の実践者に、本年度のシンポジウムのテーマである「棚田・里山再生のために今私たちができること」について、討論いただきます。

コーディネーター 中澤朋代 (松本大学 総合経営学部 准教授)

パネリスト 中里良一 (一般財団法人日本グラウンドワーク協会理事長)

谷垣忠之 (宮垣棚田振興協議会会長)

濱田将司 (NPO法人明日香の未来を創る会理事)

安井一臣 (棚田学会理事)

開催日

2021

10/23 土

13:00～15:30

参加費

無料

Zoom参加できます
(後日視聴可能)

会場

リフレッシュパーク市川

〒679-2302

兵庫県神崎郡市川町下牛尾2557-1

会場：リフレッシュパーク市川

〒679-2302兵庫県神崎郡市川町下牛尾2557-1



◆電車の場合
お問い合わせください。

◆お車の場合
播但連絡道路「市川南ランプ」より東へ
県道34号線に入り北へ進み、
「塩谷」バス停の先を左折。

【お申し込み・お問い合わせ】

TEL:090-2359-1831 FAX:0790-28-0030

Eメール:tanadalove@yahoo.co.jp (担当:永菅)

NPO法人棚田LOVER's <https://tanadalove.com>

主催:兵庫県、公益社団法人ひょうご農林機構

後援:市川町、市川町商工会、市川町観光協会

企画:NPO法人棚田LOVER's、古民家しろめて



お申し込み締め切り
10/21(木)

講師・パネリスト等のプロフィール

永菅裕一(棚田くん)



NPO法人棚田LOVERS理事長。1984年9月2日生まれ。兵庫県神戸市川町出身。高校時代、環境問題に関心を持ち、姫路工業大学環境人間学部に入学。研究をしていく中で棚田と出会い、失われつつある棚田の素晴らしさを世の中に伝えるため2007年5月、棚田LOVER'sを結成。大学や商店街などでの棚田PR活動を行っている。購入した古民家を2020年に民宿としてオープン。将来の夢は、馬を飼って馬耕やホースセラピをすること。今後は森のようちえんの開園、兵庫県で棚田サミット、さらに、世界棚田サミットを開催を目指す。

大久保徹(ポブラ社)



出版社や編集プロダクションなど6社を経て起業。これまで30年間、書籍から雑誌、映像まであらゆるコンテンツを数百タイトル制作する程の編集者兼クリエイター!! 棚田くんが15年間続けてきた「棚田での自然環境保全活動」の制作を手掛ける。

浅井智子(自然育児 森のわらべ多治見園 園長)



我が子を森のようちえんで育ててきた経験をもとに、世界中のお母さんたちの幸せを願って森のわらべを開園。現在も現場で保育、教育の実践を重ねつつ、いい保育はいい経営とセットを持論に、経営者としての感覚も磨き続けている。森のわらべにとって必要なことを嗅ぎ分ける嗅覚と、人を巻き込んでいながら夢を実現していく実行力には定評あり。講師&カウンセラーとしても全国で活躍。YouTube、stand.fmなどSNSを駆使しながら、自分の声を世界に届けていくエネルギーは、まだまだ衰えず。家族大好き♡二人の息子のお母ちゃん。『母と子の幸せ応援団～ひなたぼっこ～』代表、『お母ちゃん革命』著者。

安井一臣(棚田学会理事)



1942(昭17)年、長崎県大村市生まれ。子ども時代の遊び場は棚田・里山。佐賀大学農学部卒業後バイエルクロップサイエンス(株)で稲作用農薬の研究・開発に従事。専門は農薬学、作物栽培学。棚田学会理事兼研究委員長。各地(日本、中国、台湾、フィリピン、インドネシア、ベトナムなど)の棚田巡りを楽しむ傍ら、棚田の多面的機能の重要性につき発信中。水田環境鑑定士(米・食味鑑定士協会)、「田んぼの学校」指導員(地域環境資源センター)。

中澤朋代(松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 准教授)



NPO法人日本エコツーリズムセンター 共同代表理事 JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD運営委員 長野県中山間地直接支払制度懇談会座長ほか、自治体の環境系審議委員を歴任。富士山麓で自然学校に10年努め、2006年より現職。環境教育・エコツーリズム・持続可能な観光・自然体験活動をテーマに実践研究を行っています。

谷垣 忠之(宮垣棚田振興協議会会長)



養父市大屋町出身。宮垣集落協定代表(中山間地域等直接支払交付金事業)。長年、中山間地域等直接支払交付金事業の集落協定代表として、棚田の保全活動・生産活動に従事し、平成28年度、令和2年度は区長として中山間集落の自治活動にも積極的に取り組む。棚田地域振興法の施行後は宮垣棚田振興協議会の発足に尽力し、自ら会長を務める。当協議会が作成した指定棚田地域振興活動計画は県内認定計画の第1号。

中里良一(一般財団法人日本グラウンドワーク協会理事長、棚田学会理事)



福岡市生まれ。NPO法人せんがまち棚田倶楽部理事、学生サークル静岡大学棚田研究会顧問、農業農村を応援する大学生サークルネット代表、博士(専門:大学生連携地域活性化、地域活性化補助金、棚田保全)。静岡県菊川市の倉沢棚田において、持続的に保全活動を行う体制づくりのために「NPO法人」を設立。また、農作業、イベント開催等の労働力を持続的に安定して確保するために棚田保全活動支援を目的とした「大学生サークル」を設立、加えて、活動資金を持続的に安定して確保するために「棚田オーナー制」の導入。一般財団法人日本グラウンドワーク協会の取組として、毛原棚田(京都府福知山市)、いこま棚田(奈良県生駒市)、稲淵棚田(奈良県明日香市)、棚田LOVER's棚田(兵庫県市川町)の支援を行っている。農業農村を応援する大学生サークルネット(12大学参加)の取組として、世界農業遺産である白米千枚田(石川県輪島市)の保全活動支援を行っている。博士論文は「持続可能な棚田保全方策の構築」。世田谷区在住。

濱田将司(NPO法人明日香の未来を創る会理事)



2007年、岡山県美作市上山の棚田の再生に参加、一年半余りの活動を経て、2010年より活動拠点を奈良県高市郡明日香村の稲淵棚田に移し現在に至る。棚田の美しさや多面的機能に強く惹かれるものがあり、保全活動に取組む。よそ者だからわかる地域の素晴らしさを伝えてゆきたい。

棚田地域「交流・学習会」(楽農カフェ)のお知らせ!

棚田保全や地域の活性化に取り組む(目指す)関係者が集まり、活動状況等についての意見交換や専門家からの話題提供やアドバイスいただく「交流・学習会」を以下のとおり開催します。

日時: 2021年10月3日(日)15:00~18:00

参加方式: ZOOMによるオンライン方式

参加費: 無料(事前申し込みが必要です。)(後日視聴可能)

【内容】

・話題提供

「これからの棚田の未来を描こう～日本と世界の棚田の風景と生き物たち～」(棚田学会理事 安井一臣)

「棚田・里山再生に向けた取組と課題」(NPO法人棚田LOVER'S理事長 永菅裕一)

・意見交換

アドバイザー 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里良一

開催日

2021

10/3日

15:00~18:00

「交流・学習会」(楽農カフェ)の申し込みはこちら
申し込み締め切り、9/29(水)

